

事務事業評価の評価結果について（平成29年度の事業に対する評価）

安濃総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）						事業の評価		所管課長等による評価	
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
安濃・地域振興課	観光施設等維持管理事業（安濃総合支所）	経ヶ峰、長谷山の山並みが形成する豊かな自然を財産としながら、施設修繕及び登山道の安全利用のために維持管理を継続し、自然とのふれあいの場を充実する。	登山者数	利用者から苦情がない施設の維持管理に努めることによりリピーターを増やしていく。	12,500人	12,300人	登山者の要望に応えられるような施設の維持管理を図る。	施設修繕等を実施して維持管理をしていることにより、登山者数の達成に努めていく。	3	施設整備を実施し、登山道及び駐車場整備が図られ、次なる目標値の達成に努めていく。	現状維持	施設整備及び登山道の整備を行い、安全に使用して頂くために維持管理を継続し、リピーターを増やしていく。
安濃・地域振興課	サンヒルズ安濃管理運営事業	サンヒルズ安濃は、ハーモニーホール・福祉センター・交流館・保健センター・図書館、からなる複合施設で、複合化の利点を生かした地域の環境、交流を創出する機能を備えており、住民の文化教養の向上を図り、福祉の増進に寄与する。	ハーモニーホールの利用者数	文化教養の向上のため、ハーモニーホールの利用者数を指標とします。	13,000人	9,790人	多数の入場者を見込む、市あるいは公共的団体行事の開催状況が反映した。 悪天候による中止、講演・研修会場としての利用減が主な要因である。 広報及び使用申込や施設照会・案内時にPRに努めたものの、結果として他力本願の状況で数値目標は達成し得ていない。	自主事業の開催など、集客行事が実施し得ていない。当ホールほかサンヒルズ安濃施設の在り方については、現在見直しや改善策の推進に取り組んでいるところから、施設管理運営等の効率化を図るとともに、リニューアル後の利用促進に向けてPRに努めていく。	2	公共施設の在り方検討から、ホールにあっては「津市文化センター等整備運営方針」を定め、当ホールは『創造ホール』として広い舞台を利用した作品の創作、稽古が行える環境整備を進めることとしている（平成30年度は翌年の大規模改修に向けての設計を予定）。一方で、サンヒルズ安濃全体では公共施設再編から、安濃地域及び周辺を含めた地域の拠点化施設として機能の充実、諸室の配置見直しを行い、より利用しやすい施設づくりをめざすこととしている。 ホール改修時の休館から、一時的には利用者数減を想定するものの、リニューアル後の利用者数増に向けて事前PRの工夫を考えていく。	拡充・充実	公共施設の在り方検討から、ホールにあっては「津市文化センター等整備運営方針」を定め、当ホールは『創造ホール』として広い舞台を利用した作品の創作、稽古が行える環境整備を進めることとしている（平成30年度は翌年の大規模改修に向けての設計を予定）。一方で、サンヒルズ安濃全体では公共施設再編から、安濃地域及び周辺を含めた地域の拠点化施設として機能の充実、諸室の配置見直しを行い、より利用しやすい施設づくりをめざすこととしている。
安濃・地域振興課	体育館管理運営事業（安濃総合支所）	スポーツを通して、市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりなどを目的にした交流の機会づくりを増進するため、安全・安心を最優先に各運動施設の適切な維持・管理を行います。合併以前から三重県中勢地域のスポーツ施設（体育館）の中心的な役割を果たし、合併後においては新津市のスポーツ施設（体育館）の中心的な役割を担っており、今後においても更なるスポーツの中心的な施設として需要が見込まれるため、日ごろの安全配慮義務を怠らないよう安全管理運営に努めていく。	利用者数	市民の健康づくりや競技力の向上、コミュニティづくりのため利用者数を指標とします。	80,000人	106,491人			3	・平成29年度は指定管理3年目となり、昨年度以上に施設の利用状況の分析など施設運用における改善・見直しを行ったが、利用件数はH28年度3,600件に対しH29年度3,250件で224件の減となり、利用料金においてもH28年度17,552千円に対しH29年度16,604千円と948千円の減収になった。 近隣にサオリーナが開館して市民に運動施設に対して選択肢が増えたため、利用者が流れることが懸念されましたが、自主事業（イベント等）も運営できた。	拡充・充実	目標達成ができるよう引き続き事業を行い、国体等に向けた計画も含み、施設の管理・運営について効率化を行ってまいります。

安濃総合支所

評価：4＝できている 3＝概ねできている 2＝課題克服が必要 1＝未着手状況

課等名	中事業名	事業の目的	成果指標（平成29年度）						事業の評価		所管課長等による評価	
			指標名	指標設定の考え方	目標値	実績値	数値以外の目標	目標に対する実績等の分析	評価	所見	平成30年度以降の事業の方向性	所見
安濃・地域振興課	安濃交流会館管理運営事業	住民の健康増進、福祉の向上及び歴史的文化の継承並びに地域の活性化を図るとともに、住民の交流を促進する。	施設利用者数	健康増進、福祉向上等のために、利用者数を指標とします。	46,000人	50,901人		(あおう温泉) 開館日数は306日で、温浴施設利用のPR等による集客、施設の美化修繕に努めたところ、利用者は増加し、1日平均利用者数は164人で、前年に比べ1日平均16人の増となった。今後も施設のPR等に努め、利用促進を図る。	3	事業目的を達成するための成果指標の目標値は達成できたが、今後も安定して施設を運営していくために、施設利用者の増加をめざして施設のPR活動等に積極的に取り組むとともに、効率的な施設運営を図っていく。	現状維持	数値目標は達成されているが、事業のより一層の充実をめざし、施設運営等の効率化及びPRを図っていきます。
安濃・地域振興課	獣害対策事業（安濃総合支所）	野生鳥獣による農林産物への被害を抑制し、農業者の収入や生産意欲を守るため、野生鳥獣の個体数の調整、防護柵の設置、地域ぐるみの獣害対策への支援を行い、獣害対策の取組の推進を図る。	総合的な獣害対策の取組の推進	個体数調整・防護柵の設置・地域ぐるみでの取組の支援を対策の基本としつつ、獣害対策の高度化の推進を図る。			個体数調整・防護柵の設置・地域ぐるみでの取組の支援による着実な獣害被害の抑制	個体数調整において、捕獲頭数の実績増 防護柵の設置場所の実績増	3	有害鳥獣の捕獲数については年々増加してきており、地域での取り組みについても、各地域性に沿った獣害対策の浸透が見受けられる。防護柵の設置等により、野生鳥獣による農林産物への被害の抑制を図っているが、野生鳥獣の個体数の調整という点から、現在は猟友会の協力を得ているものの、当該会員の高齢化に伴い、今後の後継者の確保が必要と考える。	拡充・充実	鳥獣被害としては増加傾向にあり、平成30年度以降も更に引き続き獣害対策を行っていく必要がある。対策内容としては、引き続き「個体数調整」、「防護柵の推進」、「地域ぐるみでの取り組み」の3本の柱を中心に、先進的なものも取り入れながら、鳥獣被害の低減を図っていく。
安濃・地域振興課	文化振興事業（安濃総合支所）	住民が気軽に参加できる文化祭を目指して、安濃町内で文化祭を開催し文化活動を進め、文化芸術活動の充実をめざす。（文化振興計画1-1-1）	参加者数	町文化祭に多くの住民が参加することより、文化、芸術に対する文化振興の向上が図られるため、参加者数を指標とします。	1,000人	約2,000人			3	更に参加者の増加を目指し、計画及び実施内容や周知方法の充実を図るよう指導・提案を行う。	拡充・充実	H27年度から実行委員会が主体となり、安濃町芸術文化協会の協力を得て、自治会や学校等にも協力を要請し、更に住民が参加しやすい環境を整え、参加者の増大を目指します。